教育振興運動推進事業

自治体名

岩手県滝沢村

学校数

小学校　8校　中学校　6校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

当村は内陸中央部に位置しており、津波浸水等の被害はなかったが、沿岸部で村民2名が犠牲になるとともに、道路被害が15件、建物被害が 1,208 件あった。避難所は14カ所で開設され、一時 712 名が避難した。（仮設住宅数：0）

＜取組名＞　～　子どもの読書活動の推進　～

取組概要

実施形態（該当に○）	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	（連携している団体等・大学の名称）
	○			
実施主体・場所等	**コーディネーター数**	**ボランティア延べ人数**	**年間実施日数（回数）**	**活動場所**
			1	滝沢村立滝沢第二小学校図書室

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
	○		○		（　　）
学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					（　　）
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
					（　　）
家庭教育・保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
	○				（　　）
地域課題に応じた学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
				○	（　　）

平成24年度滝沢村教育振興運動滝沢第二小学校実践区　第1回読書ボランティアのための研修会

1　目　的

滝沢第二小学校読書ボランティア等を対象に、活動や指導に必要な知識や技術を身につけるための研修機会を実施し、子どもの読書推進活動を支援する。

2　日　時　　平成24年8月9日（木）　9時30分～12時00分

3　参加者　　18名（図書ボランティア、滝沢村学校図書館支援員等）

4　内　容　　講義・演習

「学校図書館のつくり方」実践編　～ボランティアでできること～

講師

児童文学評論家　赤木　かん子　氏

取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

- 村民2名が沿岸地区で犠牲になったことに加え、現在でも沿岸部で生活している家族や親戚の被災等に関連して、様々な影響が見られる。
- 震災時の様々な体験や支援活動等を通じて、従前から課題となっていた地域コミュニティの在り方について、本村においても改めて重要視されている。
- 本村の子どもたちの課題である「読書活動」等を通じて、地域ぐるみで子どもたちを支えていく体制を整えていく必要がある。

◇住民等からの要望・必要な取組

- 子どもたちの豊かな読書活動を推進するために、地域に根ざした読書ボランティアの育成を含めて、学校図書館の環境を整備する必要があった。
- 読書ボランティアからは、継続した研修機会の設定が求められている。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

課題解決のためのそれぞれの役割

〈滝沢村教育振興運動滝沢第二小学校実践区〉課題把握。参加対象者への周知。

〈滝沢村教育振興運動推進協議会〉研修会の実施。

〈盛岡教育事務所〉講師の紹介。周知協力。

◇取組の充実や課題解決のための工夫

「読書活動」を教育振興運動の全村共通テーマとして設定し、地域一体となった活動を継続して展開する。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

- 実際の学校図書館を活用した具体的な研修であったため、図書館掲示の方策や本の配架の方法など体験を通して理解できた。
- 講義だけでなく、作業を通しての研修であったため、他校のボランティアや学校図書館支援員の交流が生じ、お互いの情報共有の場となった。
- 時間の都合で限られた研修内容であったが、滝二小ボランティアが研修結果を活かし、積極的に図書館整備に取り組むこととなり、図書館環境が充実する機会となった。
- 図書館整備後、他教員や児童からの評価が高く、図書館利用が促進された。

◇課題や今後の展望

- 本研修の成果を、村内他校のボランティアや図書館支援員に広める機会が必要である。
- 講師の考えと滝二小の実情がすべてにおいて一致するのではなかったため、研修後の図書館整備に時間が必要であった。
- 講師やボランティアの要求する環境整備に費用がかかるため、十分に要望を取り入れた図書館環境整備には至っていないのが現状である。
- 今後は、読書のみならず、様々なボランティア活動を拡充していきたい。